長岡技術科学大学
w-SDS，w-SDS ミーティング記録書に関する総評

今年度は 124 件の w-SDS ミーティング記録書を拝見しました。昨年学長と副学長（梅田統括安全衛生管理者）が各研究室を巡視されたそうですが、その効果が表れたのか昨年より件数が増えておりました。安全衛生活動に対して熱心に取組まれている姿勢が読み取れるものも多くありましたが、相変わらず記述内容に疑問を感じるものも少なくありません。昨年と同様な傾向は今年度も同じでした。

w-SDS

単に形だけリスク評価の数値を書き込んでいるのではないかと思えるような w-SDS は、あまり見当たらず、リスクアセスメントに対する理解度が進んでいると思われます。
しかし、w-SDS の記載内容を「理解していないのでは」と思うようなものが数件見られましたので、記載方法について再確認を促した方が良いと思います。

w-SDS ミーティング記録書

１．w-SDS ミーティングの内容について、相変わらず「部分的に未記述」あるいは「独自の書き方」をされている研究室が少なくありませんでした。
「w-SDS 実施手順書」３ページの手順で話合いを進め、４ページの「ミーティング内容の記載例」に習って抜けなく記入していただきたいと思います。

２．実験室がない、実験室に危険な装置・設備や有害物がない、野外活動が中心という研究室の「W-SDS ミーティング記録書」が内容的に不足しているように見受けられます。これらの研究室は、安全衛生活動の趣旨に則り以下のことを話し合ってはいかがでしょうか。

①「安全のための手引き」より該当する部分を説明する。

②ヒヤリハット事例（重大な災害や事故に直結する一歩手前の出来事）を挙げ話し合う。ヒヤリハット事例がない場合は、危険個所を想定し話し合う。

３．昨年の指摘同様ミーティング時間が極端に短い（おおむね３０分間未満）研究室が上記２．のような研究室に多く見られました。怪我や病気をしてからでは遅いので、事前に出来ること（リスクアセスメント）は行っていただきたいと思います。

以　上

令和７年２月１０日

労働衛生コンサルタント　高橋　良政